



日高 義博学長 入学式式辞(要旨)

新入生諸君は、専修大学に何を求めて入学したでしょうか。大学は、言うまでもなく、高等教育機関であり、専門的な知識とスキルを教授する場ではありますが、同時に自分の生き方を深く省察し、自己の可能性を追い求め、人生の羅針盤を取得しうる場でもあります。

大学教育においては、問題を自ら発見し、それを解決する能力を身につけることを目標にしていますが、ここでは、物事を分析し、統合する能力、さらには説得する力などが要求されます。高校までは評価の対象とはなっていなかった能力を引き出し、育成することになります。偏差値の呪縛を解き放ち、自己の殻を破り、一回りも二回りも大きく発展させるのが、専修大学での教育です。大学は、どの大学に入ったかではなく、大学で何を修得したかが問題なのです。

昨今の大学改革は、研究者には象牙の塔の門戸を開き、教育の現場の中で学問の探求を行う厳しさを求め、学生にあっては、主体的な自己の可能性の追求と自己変革を求めているのです。本学は、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭において大学運営を行っていますが、これは、大学の主体は学生であり、本学で教育を受けた学生・卒業生の社会におけるパワフルな活躍が専修大学の原動力になると考えているからです。

専修大学は、明治13年(1880)に創立され、今年で創立126年の歴史を刻んでいます。明治維新後、コロンビア、エール、ハーバード、ラトガースの大学に長期間にわたり留学した若き4人の創立者達によって、経済学や近代法の考え方をわが国に根付かせるべく、専修大学の前身である「専修学校」が創立されました。専修大学は、私学として、経済学も法律学もともに一番最初に教育を始めた大学です。とりわけ、創立の当初は、五大法律学校の一つとして重要な役割を果たしました。専修大学は、わが国の近代法の黎明期にあって、いち早く学窓に近代法の灯火を点した伝統校なのです。

本学創立の経緯から、次のことを読み取るべきだと思います。

第一に、日本語で専門教育をしようとした重みです。これをあえて実行したのは、創立者達には、日本語で教育しなければ、市民レベルに近代法や経済学の考え方が根付かないという思いがあったのだと思います。日本社会における価値観や規範意識を変動させなければ、日本は近代国家に生まれ変わらないという強い思いが、近代法の洗礼を受けて帰国した創立者達にはあったに違いありません。

第二としては、市民レベルにおいて専門教育を行おうとしたことです。当初は、創立者達の得意とする専門分野、特に実学に特化し、一つの分野に深く専攻し修得させることで、市民社会の屋台骨を支える有為な人材を育成しようとしたのです。このことは、実学志向が強いという本学のカラーにもつながっていると思います。

21世紀に入り、創立者達の建学の精神に立ち返って大学教育の理念を練り直しました。それが21世紀のビジョンとして掲げました「社会知性の開発」です。

価値体系が崩れ、倫理観が迷走している今日において、社会知性を開発することは問題を発見しそれを解決する能力を身につけるだけでなく、人間性豊かな倫理観のある有為な人材を育成することでもあります。このことは学部教育であれ大学院教育であれ、共通の教育理念です。法科大学院にあっては社会生活上の医師とも言うべき法曹を育成しようとしているのは、まさに建学の精神の具体化にほかなりません。

皆さんは、私学として誇りうる歴史と伝統を持つ専修大学において自己発展の基盤を養うのです。諸君の活躍が専修大学の新たな歴史を刻んでいくことになります。真摯な大学生活の中で生まれた人間関係は、諸君の人間性を豊かなものにします。本学で学ぶことに誇りと自信を持ち、高い志に向けて勉学されんことを期待します。



出牛 正芳理事長 入学式祝辞(要旨)

昨年創立125年を迎え、今年さらなる歴史の構築のスタートを皆さんと共に歩み出せることはこの上ない喜びであります。

本学は、創立者の理念の原点に立ち返って、「社会知性の開発」を21世紀ビジョンとして掲げております。主体的に問題を発見し、これを解決するための能力を身につけ、さらに人間性豊かな倫理観のある有為な人材を育成することによって、社会への貢献を果たすことこそが、これからの本学の使命であり、今日まで創立者たちの教育にかける熱い思いをこのビジョンに引き継いでおります。また本学では、教育機関としての原点である「学生を基本に据えた大学づくり」を目標に、これまでの歴史と伝統の礎の上にさらなる発展を目指して、個性的で魅力ある大学づくりに全力をあげて取り組んでおります。

皆さんがこれからの大学生活を有意義に過ごすため、二つのことを申し述べておきたいと思えます。

第一に、自分自身の向上に向かって努力を怠ってはならないということです。そして、常に自己管理の出来る学生になってください。努力の積み重ねが、皆さんを成長させてくれます。「時は金なり」、今現在の時間を大切にしてください。一度失った時間を取り戻すことは出来ないのです。時間管理を適切に行えれば必然的に健康管理にもつながります。身体を健康に保つことで精神面も健全になってくるはずで、思考力・判断力など勉学に必要な精神力も身体が健康なくしては生じてこないでしょう。心身共に健全な状態で勉学に励んでください。

第二に、一生心の支えとなってくれる素晴らしい良き友を早く見つけてください。生涯を通して信じあえる本当の友を得ることはとても幸せなことです。良き友人がいると大学に来る楽しみも増します。そして、良き友は卒業してからも、人生のあらゆる面であなたを助けてくれることでしょう。この厳しい社会情勢の中、手にすることが出来た貴重な大学生活です。決して漫然とした気持ちで過ごさないでください。21世紀の日本、そして社会を自分たちが担っていくのだという気概を持ってほしいと願っています。

ご父母の皆様にご挨拶を述べさせていただきます。我々大学関係者は、皆様方のご期待に応えるべく、すべての教職員が全力で教育ならびに学生生活のサポートに当たらせていただくこととお約束いたします。また、本学はさらに発展するためにさまざまな計画を予定しております。特にお子様が在学中に完成する予定の、生田10号館(仮称)の建設など、教育環境の充実のためのさまざまな改革・改善に取り組んでおります。

皆様方におかれましては、引き続きお子様のご養育に励まれますと共に、本学に対しましても、ご支援とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の皆さん、人生の充実は、一生懸命生きている人に与えられるが、惰性で生きている人には与えられません。悔いのない素晴らしい大学生活を送られることを期待して歓迎の言葉といたします。

3氏に博士の学位授与

専修大学から次の3氏に3月25日付で、博士の学位が授与された。(氏名、職名に続いて学位の種類、学位請求論文名、最終学歴等)

川口 順一 専修大学商学部教授(4月1日付で名誉教授)
博士(商学)。「資産動態論の構築」。一橋大学大学院商学研究科修士課程修了。

伊藤 和憲 玉川大学工学部教授
博士(経営学)。「グローバル管理会計」。慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学。

臼杵 政治 ニッセイ基礎研究所金融研究部門上席主任研究員。 専修大学大学院経済学研究科客員教授
博士(商学)。「会社なき時代の退職金・年金プラン」。東京大学法学部卒業。

7氏が名誉教授に

専修大学名誉教授称号記授与式が4月5日、出牛正芳理事長、日高義博学長ら列席のもと行われ、3月に定年退職された7氏に称号記が授与された。

隅野隆徳氏(法学部)	教授歴30年
中田 保氏(法学部)	教授歴26年
中山雅博氏(経営学部)	教授歴29年
川口順一氏(商学部)	教授歴27年
岡澤 宏氏(文学部)	教授歴31年
服部 俊氏(文学部)	教授歴25年
蔵下勝行氏(ネットワーク情報学部)	教授歴29年

※カッコ内は退職時の学部

【訃報】木村實法学部教授

木村 實(きむら・まこと)法学部教授

4月5日、胃がんのため死去、61歳。

告別式は4月9日、東京都杉並区の光明院観音ホールで執り行われた。

喪主は妻・礼子さん。自宅は公表していない。

2001年(平13)法学部教授。主な担当は国際法。

専修人の新しい本

アフリカ経済論

室井義雄共著 <第5章担当>

本書は、アフリカの経済に関する、数少ない標準的なテキストの一冊である。近代以

前、植民地時代、及び独立後の経済状況を歴史的に考察したのち、工業・農業・農村社会・エイズ問題など、現代アフリカの産業と社会を取り上げ、さらに、国際貿易・債務問題・日本の対アフリカ援助などの国際問題を幅広く分析している。アフリカを学び、理解する上での貴重な書物といえよう。北川勝彦・高橋基樹編著（ミネルヴァ書房、本体3200円＋税）

共著者（むろい・よしお）＝経済学部教授。担当はアフリカの経済、ほか。

二文字ART

仲川恭司共著

－昨年の『一文字ART』に続くシリーズ本が登場。前回の共著者（仲川教授、石飛博光氏、藏元訓征氏）に辻元大雲氏が加わった。

「幽居」「好古」「英風」「折枝」などの二文字を取り上げ、右ページに楷・行・草・隸・篆（てん）書体を古典から多数を抜粋、左ページには4氏をはじめ書家24氏の創作作品を掲載。共著者が増えたことで書風の幅も広がり、それぞれの作品が個性豊かで楽しい。書を書く時の参考になるばかりでなく、鑑賞の手引きにも最適。語句の解釈を深め、想像力を広げる一書。（日本習字普及協会、3000円＋税）

共著者（なかがわ・きょうじ）＝文学部教授。担当は書道。

【ニュース専修2005年4月号2面】